

カマイルカの形態について

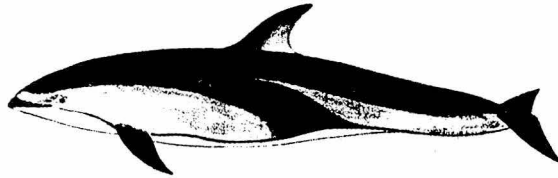
宮崎信之（国立科学博物館）

Morphological study of the Pacific white-sided dolphin

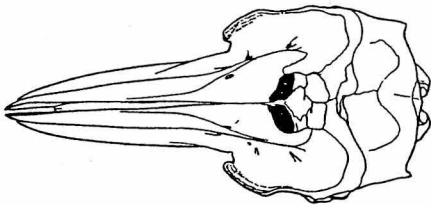
by Nobuyuki Miyazaki

カマイルカ (*Lagenorhynchus obliquidens* Gill, 1865) は北太平洋の温暖海域に生息している。本種は、アメリカ側ではアラスカ南西部からバツハ・カリフォルニアまでの海岸に、アジア側では樺太から日本までの海岸にしばしば漂着する。最近の漂着鯨類調査の結果では、本種は日本の沿岸に漂着する鯨類の9.1%を占めていた（宮崎信之，1989）。石川県能都町にある真脇遺跡の調査によると、このイルカは前期縄文時代から古代人によってすでに利用されていた形跡がある（宮崎信之・平口哲夫，1986）。

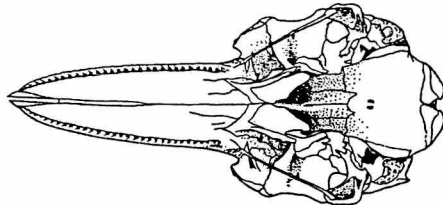
日本の周辺海域で採集したカマイルカ69標本を使用して、外部形態および頭骨に関して、成長にともなう変化、第二次性徴、地理的な変異などについて調査した。その結果、日本の周辺海域に生息しているカマイルカには、少なくとも2つの系統群のあることが判明した。本研究では、その概略について報告すると同時に、カマイルカ属のなかにおける本種の特徴について言及する。



カマイルカ (*Lagenorhynchus obliquidens*) 2~2.3m



M 23628 カマイルカ 頭骨（背面）
♀ 225 cm



頭骨（腹面）